

「利用間伐における作業システム等の取組事例」の発行

1 はじめに

林業技術センターでは、利用間伐に取り組んでいる県内の主な事業体を対象に、「作業上のような工夫をしているか」という点に着目し、聞き取り調査を実施しました。

この調査の結果を、このたび、「利用間伐における作業システム等の取組事例」として取りまとめ、※発行しましたので、その概要をご紹介します。

2 事例集の概要

(1) 掲載した事業体

聞き取り調査の対象としたのは、釜石地方森林組合、気仙地方森林



3 事例集の活用

本事例集で紹介したそれぞれの事業体の地域らしさを活かした取り組みの中から

組合、西間林業、有限会社二和木材、東磐井地方森林組合、宮古地方森林組合及び明和フォレストック有会社（五十音順）の7事業体です。

作業システム上の分類では、車両系システムが2事業体となつています。

(2) 掲載のポイント

事例集は、各事業体の機械や作業に対する考え方やマネジメントなどを中心に掲載しています。また、主な保有機械の種類・型番、具体的な作業事例なども掲載しています。

ら、自らの作業環境（機械の種類、作業班の形態、地形、土地柄等）に適用できそうな部分があれば参考に、作業の効率化と低コスト化へ向けた更なる作業改善の契機として役立てて頂ければ幸いです。

4 おわりに

調査に快く協力していただいた7

事業体に対しまして、本誌面をお借りして、御礼を申し上げます。事例集は、各広域振興局や主な事業体（森林組合、民間事業体）などに配付しています。

なお、個別のご要望があれば、直接、送付いたしますので、林業技術センター企画総務部（019（697）1536）までご連絡ください。※本庁森林整備課から要望があった調査事業（平成21～23年度実施）に対応したものです。

林業技術センター研究部
019（697）1536

釜石地方森林組合（釜石市）【車両系】

1 事業体の基本情報

所在地 釜石市、大槌町
 産材生産量 9,000 m³/年（土伐と間伐の比=3:7）
 労働生産性 間伐：4.6～5.7 m³/人・日、土伐：5.0～9.5 m³/人・日
 伐出コスト 間伐：6,350～6,750 円/材
 対象樹種 スギ
 外業職員数（グループ別） 給料制8人、日給月給制3人（2～4グループ構成）
 使用している主な林業機械

	型式（メーカー）	備考
プロセッサ	GP-15A（イワフジ）	ベースマシン 目付機 EX135
グラブ	GS90（前原）	本寄せウィンチ（前原）
フォワーダ	FR01（IH1 兼機）	
フォワーダ	J-10（イワフジ）	
トラクタ	T-30（イワフジ）	ウィンチ付き

※型式、メーカー名等の詳細は省略

釜石地方森林組合のページ

2 取り組みの特徴

『スイングヤードの導入によって、産材効率がアップ』

同組合のF作業班は、平成19年度まで、ウィンチ付きグラブによる本寄集材を行っていたが、平成20年の春から、スイングヤードによる簡易架橋システムを取り入れている。作業班長によると、「産材効率は、従来の方法に比べると5割以上はアップした（集材工程の生産性は、30 m³/日 以上）。平らに近いところでも、スイングヤードを使った方が効率的に作業ができる。」

現在の作業システム（定性間伐及び利状間伐）は、図-1のとおりである。

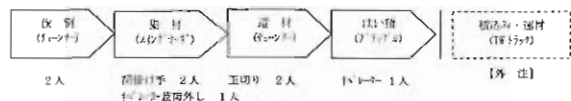


図-1 F作業班の作業システム（作業従事者数 3人）



スイングヤードによる集材 荷揚げ手（2名）の作業

宮古地方森林組合のページ